

「夏たけて」
くさむらに
追ひにがしたる蟲ひとつ
—てんとう蟲の、しばし輝く
(「倭をぐな」)
釈 遥空

七夕に合わせて学内外でイベント

夏本番に向け厳しい暑さが増すなか、国学院大学では日本の心に触れてもらおうと7月7日の七夕に合わせて学内外でイベントが開催された。

渋谷・たまプラーザキャンパスでは、七夕を前に飾り付けが行われた。学生ボランティアの協力で色とりどりの風車が準備されたほか、たまプラーザキャンパスではイルミネーションと風鈴も登場。主役の笹飾りに「小さな幸せにたくさん気が付きますように」「両思いにな

りますように」「就活がうまくいきますように」など、両キャンパスの学生たちがそれぞれの願いを記し、結びつけていた。

渋谷キャンパスでは、部会・サークルが演奏や演舞などを披露する「和装WEEK」も行われ盛り上がりを見せた。7日の「和装DAY」当日には浴衣をまとった学生が行き交い、いつものキャンパスとは異なる「国大の夏」の一日を過ごした。

学外では、国学院大学博物館

が7月7日から9日にかけて、東急プラザ渋谷を会場として3年ぶりに「ミニミュージアム」を開催。夏にちなみ、「江戸と祭り」や「浮世絵とおしゃれ」などをテーマにした教員による出張ミュージアムトークに加え、ワークショップや所蔵品展示も行われた。多くの人で賑わう店内の一角に設けられたミニミュージアムは注目を集め、展示された浮世絵や装束などが来場者を魅了していた。



日本の

2・3面に関連記事

半年間の罪穢れを祓う 夏越の大祓



夏越の大祓が6月30日、渋谷キャンパス神殿前庭で執行された。佐柳正三理事長、針本正行学長はじめ役員らが参列し半年間の罪穢れを祓い清めた。

大祓は、日常を過ごすなかで知らず知らずのうちに積もった心身の罪穢れを祓い清めるもの。毎年6月と12月の年2回、宮中をはじめ各地の神社で行われ、大祓詞を奏上し、白紙を人の形に切った人形で体を撫でたり、麻や布を裂いたり「写真、茅の輪をくぐったりするなどの神事で罪穢れを祓い、無病息災を祈る。

本学では毎年、大祓に際して渋谷・たまプラーザの両キャンパスで事前に人形、和紙と榊の葉とを細かく切った切麻、お祓の作法を記した用紙を頒布しており、在学生をはじめとした希望者が自宅などでお祓ができる機会を設けている。当日は事前に回収用の箱に託された多くの人形が、参列者の人形とともに神殿前で祓い清められた。

みはるかすもの

7月から8月が一番の旬といわれる西瓜。夏の味覚として思い浮かべる方も多いだろう。成分の9割が水分で、抗酸化作用のある成分も含む西瓜は、夏バテや熱中症対策、むくみの解消にも良いという▼南アフリカ原産である西瓜が、いつごろ日本に伝来したかについては、平安時代とも江戸時代ともいわれており定かではない。

だが、中国の西方から伝来した瓜として、その名称がついたそうだ▼江戸時代の人々も夏にはこの味覚を楽しんできた。歌川広重はじめ浮世絵師たちが夏の風景や市井の人々を取り上げた作品の中で、今と同じように半月や四角の形に切られた西瓜を売る

屋台が描かれている▼農林水産省の調査によると西瓜の作付面積や収穫量は、減少傾向が続いている。令和3年の収穫量は約32万トン、作付面積は9,200ヘクタールと、20年前の平成13年と比較して、それぞれ6割以下に減少している▼背景には、栽培難易度の高さや少子高齢化による農家の減少、核家族化や食品の多様化による消費量の減少などが挙げられている。生産地では、対策としてAIなどの先端技術を取り入れたスマート農業による省力化や収穫時期の判定、ブランド化によるファン獲得や販路拡大などの取り組みが進む▼昔から人々に親しまれてきた季節の風物詩も農家の方の存在があつてこそ。作り手に思いを馳せつつ、旬の味を堪能してはいかげんか。



七夕に合わせて「和装DAY」 浴衣姿の学生が「日本の夏」を彩る



学生ボランティアによる風車や風鈴の飾りつけも行われ、風が吹くたびに回るカラフルな風車や、夏らしい模様で描かれた風鈴が一時の涼をもたらしていた。たまプラー

7月7日、浴衣姿の学生が行き交い、願いを込めた短冊と笹飾りがキャンパスを彩る「七夕に合わせて「和装DAY」が行われ、華やかなキャンパス風景が広がった。

毎年恒例の笹飾りには今年も多くの短冊が結ばれた。「小さな幸せにたくさん気が付きますように」「就活がうまくいきますように」など、学生は思い思いの願いを短冊に込めていた。

3日から7日には「和装WEEK」として部会・サークルの演舞や演奏も行われた。青葉雅楽会の雅楽演奏や全学応援団のリーダー披露、落語研究会の七夕寄席などが和装DAYに向け雰囲気を感じ上げた。音楽研究会「Jazz Music Orchestra」のライブではソロパートのたびに盛大な拍手が送られた。同会の学生は「多くの人が演奏を聴いてくれ、私たちも楽しめた」と

ザキャンパスでは、1号館エントランス通路の天井にイルミネーションが登場。さながら天の川のような輝きを放ち、学生たちは歓声とともに見上げていた。

和装DAY当日には、色とりどりの浴衣に身を包んだ学生たちがキャンパスを歩き交った。体育連合会による緑日コーナーも設けられ、ちようちんの絵付けや射的などを楽しむ学生たちの姿であふれた。

3年生の女子学生は「和装DAYで浴衣を着るのは初めて。みんなで写真を撮ったりでき楽しい」と語った。2年生の男子学生は「試験前に良い気分転換になった。射的で景品も当たり嬉しい」と満足げな表情。浴衣姿でかき氷を味わっていた1年生の女子学生2人は「せっかくだからと思いついて浴衣を着て良かった」「去年の夏は受験勉強一色だった。今年の夏はたくさん楽しみたい」と揃って笑顔を見せた。

一日を通じて、浴衣をまとった学生たちの活気に満ちた姿が、キャンパスに華やかな「日本の夏」を演出していた。

語った。たまプラーザキャンパスではドリル競技部SEALSが登場し、ダイナミックな演舞で注目を集めた。

■キャンパス彩る浴衣姿



矢部文学部長から表彰を受ける文学部生

成績優秀者奨学制度の対象者60人を決定した。この制度は前年度に特に優れた学業成績を修めた学生を表彰し、能力向上と勉学を奨励するもの。表彰式は6月28日に文・経済・法・神道文化学部が渋谷キャンパスで、人間開発・観光まちづくり学部がたまプラーザキャンパスで行われた。

矢部文学部長は、針本正行学長、矢部健太郎文学部長、星野広和経済学部長、菊田真司法学部長、黒崎浩行神道文化学部長と奨学生らが参

加した。

はじめに針本学長が「今回の表彰は、皆さん一人一人の日々のたゆまぬ努力と研さんを積み重ねた賜物だ。皆さんに敬意を表したい」と学生たちをたたえた。その後、各学部長から学生一人一人に表彰状を授与したのち、学生代表が今後の抱負を述べた。

最後に、黒崎神道文化学部長が「皆さんがこれからは優れた能力を遺憾なく発揮することを期待している」と述べ、学生たちへエールを送った。

成績優秀者 60人を表彰

イラク・バスラ県副知事 駐日大使とともに来校



イラク・バスラ県のドゥルガム・アル・アジュワディー文化担当副知事がアブドゥル・カリム・カアブ駐日イラク大使と共に6月22日、本学渋谷キャンパスを訪問した。

両氏は、神道文化学部の黒崎浩行学部長、菅浩二教授、加瀬直弥教授と神道の特徴や日本の文化、生活との関係などについて懇談を行った。その後、博物館で神道、考古部門の展示を中心に見学した。

最後に針本正行学長との懇談が設けられ、アジュワディー副知事が「今後も研究・教育を通じ交流したい」、カアブ駐日大使が「神道や文化など日本の根幹を次世代に繋ぐ貴学とイラクの人々の相互理解の機会が持てたら」と述べ、針本学長が「文化交流などを通じ、イラクへの理解を深めていきたい」と答えた。

ルーベン・カトリック大学 研究者らが表敬訪問



ルーベン・カトリック大学（ベルギー）の文学部研究者ら8人が6月6日、本学渋谷キャンパスを表敬訪問した。

針本正行学長との懇談では、針本学長が「今年から学生間交流も始まった。両大学の交流が相互の研究者と学生にとって幸いとなれば」と述べると、同大学のクリス・ヴァン・フークロム文学部副学部長は「貴学の研究者の来訪は大きな刺激になっている。日本学をはじめ、学術交流を深めたい」と答えた。

続く博物館見学では、訪問団は解説を受けつつ、興味深そうに展示を眺めていた。最後に本学文学部教員との懇親の時間が設けられ、それぞれの専門分野などについて語り合いながら交流を深めていた。

澄川喜一法人顧問逝去

学校法人国学院大学顧問、文化勲章受章者で彫刻家の澄川喜一氏が4月9日に逝去。享年91。

澄川氏は昭和6年生まれ。31年東京藝術大学美術学部彫刻科卒、33年同専攻科修了。創作活動をしつつ同大教授、学長を歴任。令和2年文化勲章など受章多数。東京スカイツリーのデザイン監修、本学渋谷キャンパス再開発選定専門委員会委員長を務め、モニュメント「翔」「翼」を制作した。

倉石忠彦名誉教授逝去

国学院大学名誉教授の倉石忠彦氏が6月25日、逝去。享年83。

倉石氏は昭和14年生まれ。38年国学院大学文学部卒。長野県立高校教諭などを経て58年国学院大学文学部専任講師、60年同助教授、平成5年教授、17年定年退職、名誉教授。

専門は民俗学。著書に「道祖神伝承論・碑石形態論」（岩田書院、令和3年）、「都市化のなかの民俗学」（岩田書院、平成30年）など。

博物館がミニミュージアム 「日本の夏」テーマに開催

国学院大学博物館によるミニミュージアム「日本の夏に出会う展」が、7月7日から9日にかけて東急プラザ渋谷を会場に開催された。

「日本の夏」を学ぶ ミュージアムトーク

出張ミュージアムトークでは、3人の教員が登場した。7日には大東敬明・研究開発推進機構教授による講演「日本の夏！ 江戸と祭り」が行われた。大東教授は、神輿について「普段は神社に鎮座されている



江戸の夏祭りを語った大東教授

神様を神輿に遷し、目的地である御旅所に向け地域を巡る渡御を行うもの」と述べ、「平安時代から神輿を用いる祭礼がおこった」とその淵源に触れた。続いて江戸の天王祭を描いた浮世絵などを示し、人々が神輿を担ぐ様子や賑わう様子などから江戸の祭りを紐解いた。大東教授は最後に、「当時の神輿のルートを歩くのも面白いので、ぜひ試してほしい」と締めくくった。9日には「日本の夏！ 浮世絵とおしゃれ」をテーマに藤澤紫・文学部教授が講演した。藤澤教授は江戸時代の人々を描いた浮世絵を次々と紹介しつつ、「浮世絵には当時の最先端ファッションが描かれている」と語り、夏の草花などをあしらった浴衣や、透ける素材を用いるなど、「少しでも『涼し気』に見えるおしゃれを楽しんでいた」と当時の粋な夏の装いを語った。また、田中潤・研究開発推進機構共同研究員による講演「日本の美―王朝の装い―」も行われた。講演会場には装束が展示され、田中研究員は実物を示しつつ、十二単や束帯などの



賑わいを見せた展示コーナー

王朝貴族の装束を詳しく解説した。色とりどりの衣が織りなす「重ね」の美しさをその場で着装しながら紹介。参加者は装束の華やかさに見入っていた。

「御幣づくり・装束体験のワークショップ」も賑わった

8日には、吉永博彰・研究開発推進機構助教が講師を務めたワークショップ「御幣づくり」と「狩衣の着装体験」を開催。いずれも定員を超える盛況ぶりだった。御幣づくりでは、吉永助教が「御幣は神様に捧げるものであると同時に神様を象徴するものとして理解されてきた」と述べ、「幣」の字は「貴重な品、宝物」を表す。御幣は「神様に捧げる貴重な品」という意味だ」と解説した。その後、参加者は紙垂と麻を用いて御幣と被具づくりを体験。吉永助教が会場を巡りつつレクチャーを行うと、参加者は真剣な面持ちで御幣と被具を作り上げていった。狩衣体験では、吉永助教はじめ教員、博物館職員らが手伝いながら参加者が着装を体験。着装を終えた参加者は記念写真を撮影していた。会場では本学雅楽サークル「青葉雅楽会」による雅楽演奏も行われた。演奏が始まると周囲の買い物客も足を止め、雅な調べに耳を傾けていた。

アカデミック・スキル講座 レポート作成のポイント学ぶ

令和5年度のアカデミック・スキル講座の第1弾が6月28、29日と7月3日に渋谷キャンパス図書館で開催された。

この講座は、レポート作成などへの不安を解消するために教育開発推進機構が開催しており、今回は「論ぜよ型」レポートを取り上げた。

当日は同機構の内村慶士助教が講師を務め、優れたレポート作成のために必要な意見の論じ方などのポイントを解説。続いて、学生が評価する側に立ってレポートを採点するワークが行われた。学生たちは、グループに分かれ、評価したポイントなどについて意見を交わして採点結果をまとめていった。

その後は、内村助教による講評が行われ、参加者へ「今日の講座を今後のレポート作成に生かしてほしい」と言葉を送った。

大学院進学相談会 ハイブリッド形式で開催

国学院大学大学院への進学希望者を対象にした相談会が7月1日、渋谷キャンパスでの対面とオンラインのハイブリッド形式で行われ、約120人が参加した。

はじめに佐藤長門大学院委員長が「大学院には、学生が研究をしやすい環境が整っている。進学後はぜひ、活用して研究を深めてほしい」とあいさつ。

その後、各研究科の専攻・コースごとに分かれ、カリキュラムの特徴や入試制度などについて説明が行われた。また、参加者から事前に寄せられた質問に対する応答も行われ、活況を呈した。



岡部精一の古文書学講義ノート

国学院大学における古文書学という、その第一人者として岩橋小弥太（第15期・明治40～1907年卒）の名が想起される。そして、その岩橋の学問的関心は、明治36年以来、国学院に古文書学担当として出講していた、本邦古文書学の体系化に大きな功績を残した黒板勝美（当時、東京帝国大学助教・史料編纂掛編纂官）、また日本法制史を専門とし古文書にも精通した三浦周行（同掛編纂官）の講筵に列したことで涵養された。

黒板が41年に講師を辞すと、後任には同じく古文書学の碩学である伊木寿一が着任した。さらに大正15（1926・昭和元）年、史籍・書籍の編纂経験や京都帝国大学での教歴を積んだ岩橋が古文書学担当として着任すると、以後の村田正志ひいては近年に至る、院友研究者による古文書学講義の学問系譜が紡がれていく端緒となった。

古文書学という学問は、19世紀を通じてヨーロッパで史学の実証学問的性格が確立するにともない、史学研究のうえにおける補助学として発達した歴史がある。講義ノートを繙くと、例えば、冒頭「古文書学概説」に該当すると覚しき箇所では和文・欧文が混在している、古文書学という日本新紹介の学問手法が国内で成熟・体系化される以前の、生々しい質感が漂う。と同時に、このことは、当時の国学院で最新鋭の学術知見が教授されていた事実を伝えるものでもある。

岡部は東京帝国大学の出身で、黒板の1学年上級、のち参謀本部に属し『日清戦争史』の編纂や地理調査などに従事した。岡部の帝国大学卒業の年次、そして黒板の国学院出講開始の時期を踏まえれば、講義ノートの明治28年から同35年のあいだのものと覚しい。つまり国学院における黒板以前の古文書学講義の具体を示すものだ。

ひとり古文書学の講義に限らず、黎明期国学院の史学系科目の教壇には、東京帝国大学や同史料編纂掛に本務をもつ人物が実に多く出講していた。まさしく日本の学問を基軸としながらも、洋の東西を問わない、総合的な研究教育の雰囲気では満ちみちていたのである。

研究開発推進機構助教(特別専任) 比企貴之



ルワンダでの活動を語る真美氏(左)とガテラ氏

文学部講演会 義肢支援でルワンダの未来目指す

6月24日に今年度第2回文学部講演会「ルワンダで義肢をつくる」が渋谷キャンパスで開催された。

今回はアフリカのルワンダで活動を行う「ムリンディ/ジャパン・ワンラブ・プロジェクト」代表のルダシングワ・真美氏とガテラ・ルダシングワ・エマニユエル氏を講師に迎え、これまでの経験談を通して「国際協力」を考えることをテーマに掲げた。ガテラ氏がスワヒリ語で語り、真美氏が通訳をしながら説明を加えて語り進めた。

2人は同国で義肢や杖、車椅子などを無償で提供する活動を行っており、支援を受けた人々の多くが1994年のルワンダ虐殺の被害者だと説明。同国は19世紀から欧州諸国により植民地化され、その際の支配政策などを背景としてツチ族・フツ族の対立が激化してと語った。植民地政策の実例として出自による職業制限などを挙げつつ、学校で行われた差別的な教育にも触れ、「ツチ・フツ間の対立を助長し、虐殺に繋がった原因の一つ。教育は良くも悪くも全てを変えてしまう」と教育の重要性を力強く訴えた。

2人は、活動を通じて「義足を着けて立ち上がってもらうこと」「技術を学んで仕事に繋げてもらうこと」「スポーツを通して交流を深めてもらうこと」の3点を目的としていると語った。続いてルワンダでの活動の詳細を写真や動画を交えながら紹介。

真美氏はこれまで数々の難局に直面してきたと振り返りつつ、支えてくれた周囲の人たちの姿に「相手に何ができるか考えて思いやりを持つことの大切さを感じた」と語った。最後にガテラ氏は「ツチ・フツ間のわだかまりが消えるまでには、とても長い時間がかかる。虐殺を体験していない若者たちにも過去の悲しい歴史を知ってもらい、共存していくことが大切だ」とルワンダの未来に希望を込めた。

地域住民と学生が交流 人間開発学部が2イベント

たまプラーザキャンパスに拠点を置く人間開発学部が、地域住民へ向けたイベントを開催し、学生らと参加者が交流を深めた。

■たまプラーザ宇宙の学校

「たまプラーザ宇宙の学校2023」の第2回が6月24日、たまプラーザキャンパスで開催され親子連れ約40人が参加した。

宇宙の学校は小学校1・2年生とその保護者を対象に、自然科学のなかでも理科分野の学びと体験を深めてもらうと開催している。はじめに宇宙の学校前校長の柴崎和夫本学名誉教授が熱気球をテーマに講演を行った。その後、参加者たちは班に分かれ、ポリ袋を使った熱気球づくりに挑戦。思い思いの絵を描きこむなど工作を楽しんだ。完成した熱気球に家庭用のドライヤーで熱風を送ると徐々に浮かび上がり、その様子を見ていた子どもたちからは歓声が上がった。写真上。

■たまプラーザ ウェルネスアカデミー

「たまプラーザ ウェルネスアカデミー2023」が6月10日と24日にたまプラーザキャンパスで開催され、それぞれ約40人が参加した。このイベントは、地域住民の健康維持に役立ててもらおうと、同学部地域ヘルスプロモーションセンターが毎年、主催している。

6月10日の第1回は、同センターの活動に携わる健康体育学科の学生と教員が協力し、参加者の筋肉量、骨密度、血管年齢などの測定や体力測定、栄養調査を行った。6月24日の第2回は、第1回の測定結果をもとに、同学部の林真一郎教授と小林唯准教授による結果の解説が行われた。その後は、学生による健康維持のための運動指導が行われた。参加者と学生は一緒に体を動かしながら、交流を深めていた。



浮かび上がった熱気球に歓声を上げる子どもたち



学生が見本となりながら行った運動指導

第7回 観光まちづくりカフェ ゲストと学生がトークセッション

観光まちづくり学部地域マネジメント研究センターが主催する第7回観光まちづくりカフェが6月28日、たまプラーザキャンパスで開催され、約60人が参加した。

今回のテーマは「重伝建（重要伝統的建造物群保存地区）での『暮らし』から『観光まちづくり』を考える」とし、愛媛県内子町でゲストハウスを運営する山内大輔氏を招き開催。はじめに同町でフィールドワークを行った米田誠司教授ゼミの学生が地元の人々と交流しながら実施した調査の結果を発表した。

続いて山内氏が登壇し、地域おこし協力隊として移住した経緯や街並み保存に対する地域の取り組みを語った。また、地域住民と移住者との交流機会の創出など山内氏が進める活動も写真を示しながら紹介した。

最後に山内氏と米田教授、学生が同町の観光まちづくりへの取り組みや、学生の出身地との対比などについてトークセッションを繰り広げた。



学生も登壇したトークセッション

東京の「まち」舞台にフィールドワーク ジョージタウン大学と学生間交流

ジョージタウン大学大学院生による発表会



最後は両大学の学生が笑顔で記念撮影

ジョージタウン大学（米国・ワシントンDC）の大学院生と本学学生らが東京のまちを訪ねる共同フィールドワークが6月14日から16日に行われた。このフィールドワークは、同大教授でもあるジョルダン・サンド本学特別招聘教授が企画し、ジョージタウン大学で都市・地域計画を学ぶ大学院生16人と本学観光まちづくり学部、K-STEPアシスタントの学生16人が参加した。

14、15日は、新宿、中野などジョージタウン大学の大学院生が希望した4カ所をグループごとに探索。交通網や商業施設のテナント種別、都市インフラなどの特徴について調査しつつ、ランチタイムを過ごすなど交流を深めた。16日には渋谷キャンパスで調査結果の発表会が行われた。各グループは訪れたまちについて、米国の都市などと比較しつつ気が付いた特徴を挙げた。発表後には質疑応答が行われた。本学学生からの「新宿のように、鉄道事業者ごとに駅と一体となった商業ビルを設けるようなまちは米



交流しながらまちを巡った学生たち

「修理固成」の人育て

「つくる」から、「なる」育ちへ



名誉教授 新富 康央

しんとも・やすひさ
学校法人国学院大学特別参事。人間開発学部初代学部長、専門は教育社会学、人間発達学。新しい時代の子育て論には定評。

前号で述べたように、学生の皆さんには、高校までの「学習」から、大学での学びである「学修」への転換を、楽しんでほしいと願っています。しかも、国学院大学では明治23年に皇典講究所が教育機関である「国学院」を開学して以来、「修理固成」（つくろひかためなせ）の「学修」を基本姿勢としています。それでは「修理固成」の学修とは、何でしょうか？

それは、「つく（造）」教育に対する、「（自）ら」なる「学びと総括」がなされることです。

欧米の天地創造の創世神話では、神は、人も社会も「造る」存在です。「旧約聖書」「創世の書」に依れば、「神は天と地をつく（造）られた、それが始まりであった」。人間も、「われら神に似せて、われらにかたちどって」（つく（造）りだされた）存在でした。

それに比して、本学の設置理念の基盤をなしている「古事記」では、これと対照的な「国生み」が描かれています。イザナギ、イザナミに

天つ神が下界の海をお示しになり、「この漂える国を修めり固め成せ」と命じられ、天の沼矛を賜いて、イザナギ、イザナミがおおろこおろこかきならしたところ、塩が固まり島になるのです。

この「なる」を基本に、神は①人心の開発②社会の開発——を「国生み」の社会的責務とされました。これら欧米の「つく（造）る」と、我が国の「なる」の文化の違いは、人育てのあり様も異なります。

欧米諸国では、教育は education。まさに（外部から）educare 外へ、educare 運び出す、なのです。しつこく、discipline 訓練です。それに対し、我が国の子育てにおける「しつけ」は、早苗を本田に「しつける」田植えに由来しています。つまり、我が国の子育て文化は、早苗が自分自身で「一株立ち」して、すくすくと成長して稲と「なる」ように、人の育ちも自らが「なる」文化です。自分自身が伸びようとして育つのです。そこで、人が自ら自立

して育つ（「なる」）人育てを目指す故に、本学では敢えて「教育学部」の名称を退けて、「人間開発学部」としました。しかし、早苗が一株立ちして稲になり、稲穂をたわわに実らせるには、大変な手間を要します。引っ張り上げる「教育」以上に、伸びたいという自己向上意欲を育み、誰にも存在する資質・能力を最大限引き出す、人の育ちを支援する手法は、まだまだ開発途上です。「教職の国学院」も、標榜する本学は開学以来、その困難な人育ての手法に挑戦しているのです。今回も明治天皇御製で締めます。家庭教育の大切さが詠われています。「たらしねの庭のをし（教）へは、せはけれど広き世に立つ もとゝとはなれ」



インフォダイジェスト

... 在学生
 ... 保護者
 ... 卒業生
 ... 一般
 ... 受験生

内容
 日にち
 時間
 場所
 対象
 定員
 料金
 申し込み
 問い合わせ

大学からのお知らせ

令和5年6月29日からの大雨などによる災害に遭われた学生・保証人の皆さまへ

令和5年6月29日からの大雨などにより災害救助法が適用された地域に主たる家計支持者が居住し、家計の急変で今後の学業生活に支障をきたすおそれのある学生は、保証人（ご父母など）と相談のうえ下記の大学窓口までご相談ください。

適用対象地域は本学HPや内閣府防災HPで確認してください。

- 学生生活課 (☎03・5466・0145)
- ▶たまプラーザ事務課 (☎045・904・7714)
- ▶大学院事務課 (☎03・5466・0142)

夏季休暇中の事務休日および事務取扱時間について

下記の期間、大学事務を一齐休止します。夏季休暇

中の事務取扱時間は大学HP（二次元コード）で確認してください。

8月5日(土)～9月24日(日)の(土)・(日)・(祝)、8月9日(水)～21日(月)



後期授業開始について

学部・専攻科・別科・大学院の後期授業開始は9月25日(月)です。学年暦については大学HPなどで確認してください。

令和6年度 大学院秋季入試

国学院大学大学院では、別表の日程で令和6年度の秋季入試を実施します。詳細は、大学院HP（二次元コード）で確認を。



大学院事務課 (☎03・5466・0142)

本学が参加予定の進学相談会（～9月）

各地で開催される進学相談会に参加します。入学試

験制度や本学の学びに関する最新情報をもとに、進学に関する疑問や質問に直接お答えします。受験生、保護者の方はぜひご来場ください。

日・時・場別表参照
問入学課 (☎03・5466・0141)

博物館

無料
10時～18時（最終入館17時30分）。祝日を除く月曜休館
※博物館関連イベントの問い合わせは☎03・5466・0359

企画展「論語 for Beginners - 『論語』と格闘した江戸時代 -」

孔子とその弟子たちの言行録『論語』は、現在まで読み継がれている不思議な書物です。我が国における『論語』の読者は、当初は、公家や僧侶など一部の知識人に限られていましたが、江戸時代になると、爆発的に拡大しました。その軌跡を示すのが、多様な訓蒙書（さまざまな工夫がされた学習参考書のようなもの）です。本企画展は、訓蒙書を集めた展示です。『論語』と格闘した江戸時代の人々の軌跡を一緒にたどりましょう。

開催中～9月18日(月・祝)
場博物館企画展示室

令和5年度 進学相談会参加予定一覧（～9月）

都道府県	都市	会場	開催日	時間
宮城	仙台	仙台国際センター	7月23日(日)	12:00～17:30
千葉	千葉	東京ベイ幕張ホール	9月10日(日)	10:00～16:30
福岡	福岡	ソラリア西鉄ホテル	9月13日(水)	15:00～18:30
神奈川	横浜	パシフィコ横浜	9月24日(日)	10:00～16:30

大学院 令和6年度秋季入試日程

研究科	区分	専攻	募集人員	願書受付期間	試験日・合格発表	手続期間			
文学	前期	一般	神道学・宗教学	10名	8月25日(金)～9月7日(休)	【試験日】 10月7日(土) (口述試験) 【合格発表】 10月12日(木)	【一次手続】 10月16日(月)～23日(月) 【二次手続】 令和6年2月24日(土)～3月4日(月) ※学部入試日3月2日(出)除く		
			文学	15名					
			史学	20名					
		外国人	神道学・宗教学	若干名					
			文学	若干名					
			史学	若干名					
	後期	学内成績選考※1	神道学・宗教学	若干名		【試験日】 10月11日(水) (口述試験) 【合格発表】 10月14日(土)			
			文学	若干名					
			史学	若干名					
		社会人	神道学・宗教学	若干名					
			文学	若干名					
			史学	若干名					
法学	前期	一般	神道学・宗教学	5名	【試験日】 9月23日(土・祝) 【合格発表】 10月4日(水)	【一次手続】 10月7日(土)～14日(土) 【二次手続】 令和6年2月24日(土)～3月4日(月) ※学部入試日3月2日(出)除く			
			外国人	若干名					
			学内論文選考※2	若干名					
		後期	学内成績選考※2	神道学・宗教学			若干名	【試験日】 10月7日(土)～14日(土) 【合格発表】 10月4日(水)	
				学内論文選考※2			若干名		
				学内成績選考※2			若干名		
	社会人		神道学・宗教学	若干名					
			文学	若干名					
			史学	若干名					
	経済学	前期	一般	神道学・宗教学			5名	【試験日】 9月23日(土・祝) 【合格発表】 10月4日(水)	【一次手続】 10月7日(土)～14日(土) 【二次手続】 令和6年2月24日(土)～3月4日(月) ※学部入試日3月2日(出)除く
				外国人			若干名		
				学内推薦			若干名		
後期		学内推薦	神道学・宗教学	若干名	【試験日】 10月7日(土)～14日(土) 【合格発表】 10月4日(水)				
			学内推薦	若干名					
			学内推薦	若干名					

※1 本学文学部4年生に限る ※2 本学法学部3年生または卒業見込みの者に限る

キャリアサポート

※詳細確認・申し込みはK-SMAPYⅡから行ってください

第3回WEB合同企業説明会

本学学生の採用意欲が高い、優良企業をお招きして開催する、学内合同企業説明会です。この時期から、秋採用を開始する企業が増えてきます。応募先企業が減ってきた方、更に新しい企業を探したい方必見です。この機会に新しい企業を見つけて選択肢を増やしましょう！

9月20日(水)
4年生

公務員志望者専用個別面談

公務員対策に関する相談に、専門講師がアドバイスを行います。近年、公務員試験では筆記試験よりも人物評価試験（2次の面接試験）が重視されています。筆記試験の勉強しかしておらず、人物評価試験の対策がこれからという方はぜひ活用してください。原則対面で実施します。

7月28日(金)、8月4日(金)ほか
3～4年生

卓球部 女子1ペアが関東ベスト8リーグ戦・女子が2部準優勝

関東学生卓球選手権大会が6月14日から16日に、所沢市民体育館（埼玉県所沢市）で開催され、国学院大学卓球部からは5選手が出場した。全92ペアで争われた女子ダブルスでは、同部の米満真奈美選手（日文4）・鯨津萌々子選手（経3）ペアが予選リーグを突破し決勝トーナメントに進出。1回戦を突破しベスト8となった。

また、同部が2部に所属する関東学生卓球春季リーグ戦も全日程が終了し、男子が4位、女子が準優勝となった。

リーグ戦は5月10日から12日にかけて所沢市民体

育館で開催。同部男子は10日の初戦で日本体育大学に1-4で敗れたものの、11日の埼玉工業大学戦に4-2、慶応義塾大学戦に4-1と連続で勝利した。12日の東洋大学戦でも4-1と勝利し、最終戦で駒沢大学と対戦。各選手が奮戦したものの1-4と敗れ、3勝2敗の4位となった。

同部女子は10日の初戦で東京経済大学に4-0と完勝。11日には青山学院大学と対戦し4-1、続く順天堂大学との対戦でも4-2と順調に勝利を重ねた。12日には東京女子体育大学にも4-0と勝利。最終試合の筑波大学には惜しくも敗れたもの



関東ベスト8の鯨津選手(左)と米満選手

の、4勝1敗でリーグ2位の成績を収めた。この結果、同部女子は7月1日に日本体育大学世田谷キャンパスで行われた入れ替え戦に臨み、1部8位の大正大学と対戦。惜しくも2-4と敗れ1部昇格はならなかった。

柔道部 6年ぶりベスト8 全日本学生柔道優勝大会

男子第72回・女子第32回全日本学生柔道優勝大会が6月24、25日に日本武道館（東京都千代田区）で開催され、国学院大学柔道部は男子の部で6年ぶりにベスト8となった。

この大会は、各大学7人の代表選手による点取り式トーナメント戦で開催された。同部は1回戦で大阪経済大学と対戦。先鋒の岩下幹人選手（健

体3）が背負い投げで一本勝ちを収めると続く6選手もそれぞれ一本を奪い7-0と快勝した。

2回戦では国際武道大学（千葉県）と対戦。1勝1敗2分で迎えた5番手の三将・後藤颯太選手（健体2）は開始わずか12秒で内股を決め、一本を奪い勝利する。続く6番手の副将・松本匡平選手（法3）も同じく内股で一本を奪うと最後の



準々決勝・国士館大学戦に臨む選手たち

大将戦は引き分けで終え、3勝1敗2分で2回戦を突破した。3回戦では岡山商科大学と対戦。3試合目までは1敗2分とリードされるも、4番手の中堅・騰川雄一朗選手（法4）が小内巻込で一本勝ちを収め、1勝1敗2分と並ぶ。続く後藤選手、松本選手が勝利し逆転すると、7番手の大将を務めた中村亮介選手（日文4）も勝利し4連勝。4勝1敗2分で岡山商科大学を下し、準々決勝進出を決めた。

準々決勝では強豪の国士館大学（東京）との対戦に臨み、各選手が奮闘したものの0-5で敗れた。優勝は決勝で7連覇を目指した東海大学を下した国士館大学で16年ぶり7度目。松本選手は技術が優秀と評価された選手10人に贈られる優秀選手賞を受賞した。

本大会は体重無差別で行われるため、重量級の選手を多く擁する大学が有利といわれている。軽量級を得意とする同部のベスト8入りは平成29年以来6年ぶり、各選手の健闘が光った。



優秀選手賞を受賞した松本選手（右）

ソフトテニス部 女子が初の全国制覇 学生王座決定戦を制す

第43回全日本大学ソフトテニス王座決定戦が、6月17、18日にエフピコアリーナふくやま（広島県福山市）で開催され、国学院大学ソフトテニス部女子が優勝し日本一の栄冠を手にした。

この大会は、全国9地区の春季リーグ優勝校が参加し開催。秋の全日本学生ソフトテニス大会とともに学生2大タイトルの一つに数えられる。17日の予選リーグ初戦で仙台大学（東北地区代表）と対戦した同部女子は、第1試合は接戦の末に敗れたものの、第2試合では濱島怜奈選手（初教2）が4-0で勝利。第3試合の久保田茜選手（日文3）・原千晴選手（中文3）ペアも手堅いプレーを見せ4-0と相手ペアを圧倒し、2勝1敗で白星スタートを切った。第2戦の信州大学（北信越地区代表）にも勝利を収め、決勝リーグ進出を決めた。

18日の決勝リーグは、第1戦で福岡大学（九州地区代表）と対戦。寺澤佑珠妃選手（日文2）

・高嶺心萌選手（中文2）ペアが5-1、濱島選手が4-2と堅実な試合運びで2連勝。2勝1敗で福岡大学に勝利し優勝に王手をかけた。臨んだ

第2戦は四国大学（四国地区代表）と対戦。寺澤選手・高嶺選手ペアが5-0、濱島選手が4-0と力強いプレーで勝利した。第3試合は最終ゲームまでもつれる接戦に惜しくも敗れたが、2勝1敗で四国大学を下した同部女子は見事に優勝を飾った。

同大会初出場ながら全国制覇を成し遂げた選手たちは試合後、満面の笑みを見せた。同部の全国大会優勝は男女通じ初の快挙。



全国制覇に笑顔を見せた選手たち（同部提供）



日本代表に選出された武内投手

硬式野球部

武内投手が侍ジャパン選出

国学院大学硬式野球部の武内夏暉投手（健体4）が、7月8日から13日に米国で行われた日米大学野球選手権大会に大学日本代表（侍ジャパン）の一員として出場した。

武内投手は同部のエースとして活躍。東都大学野球1部春季リーグ戦でも2度

の完投を果たしたほか、昨年度の秋季リーグの優勝、その後の明治神宮大会の準優勝にも貢献している。

武内投手は、第1戦に2番手としてマウンドに立ち、4回を投げ1安打に抑えるなど日本代表の勝利に貢献したほか、第4戦と第5戦でも登板した。

令和4年度卒業生アンケート調査

コロナ禍の影響受けつつも成長を実感

国学院大学が例年、3月の卒業証書授与と併せ実施している卒業生アンケート調査の結果がまとまった。この調査は、学修成果や大学生生活の満足度など5項目全18問で実施し、学部・神道学専攻科・別科神道専修の卒業生2334人中2047人が回答した（回答率87.7%）。

大学生生活の満足度は「とても満足」「満足」「やや満足」との回答が82.4%と前年度から3ポイント増加し、「やや不満足」「不満足」「とても不満」は17.4%と前年度から3ポイント低下した。

学修成果については、今回調査でも学部学科の学びと関連が深い項目において、学生自身が成果を強く実感する傾向が認められた。一例では、日

本に対する理解が深まったかを問う設問では、日本文学科の約8割、神道文化学科の約7割（全学50.7%）が「あてはまる」と回答した。

また、思考力や判断力などの力が身に付いたかを問う設問では、15問中14問で前年度に比べ「あてはまる」「少しあてはまる」と回答した比率が高くなった。特に、「日本語を正確に読み、表現する力」「他者の価値観を尊重し、異文化を受容する力」などで「あてはまる」との回答がそれぞれ前年度から5ポイント以上増加した。

自由記述回答では、身に付いた力として「逆境でもなんとかしようとする力」「コロナ禍で制限があるなか、臨機応変に取り組むべきことを考

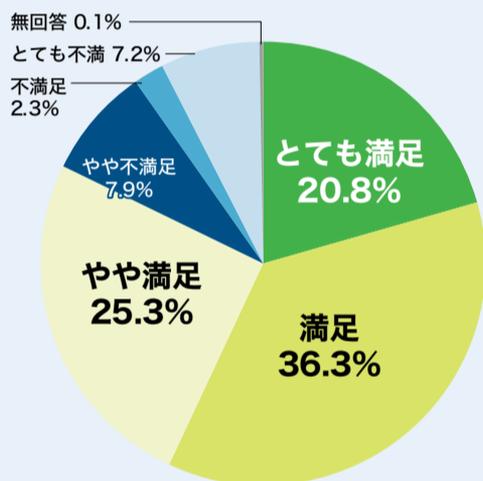
える力」などコロナ禍に触れる記述が目立った。特に2、3年生時にコロナ禍でさまざまな影響を受けながらも、学生たちが学修に取り組み成長したことを示す結果となった。一方で、大学に対しては「情報発信の遅さ」「自発的に行動する学生への積極的な支援の不足」などの意見が寄せられた。また、後輩へのアドバイスでは「自分の好きなこと、学びたい事に真っ直ぐ進んでほしい」「さまざまな人と関わりを持つことは大切な学び」といった声が寄せられた。

調査結果は本学ホームページで公開している＝**二次元コード**。

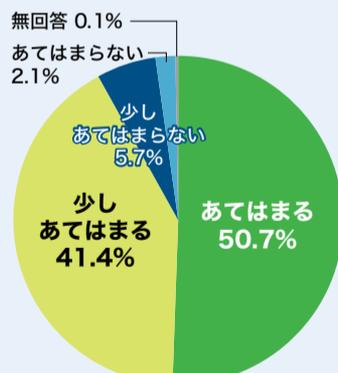
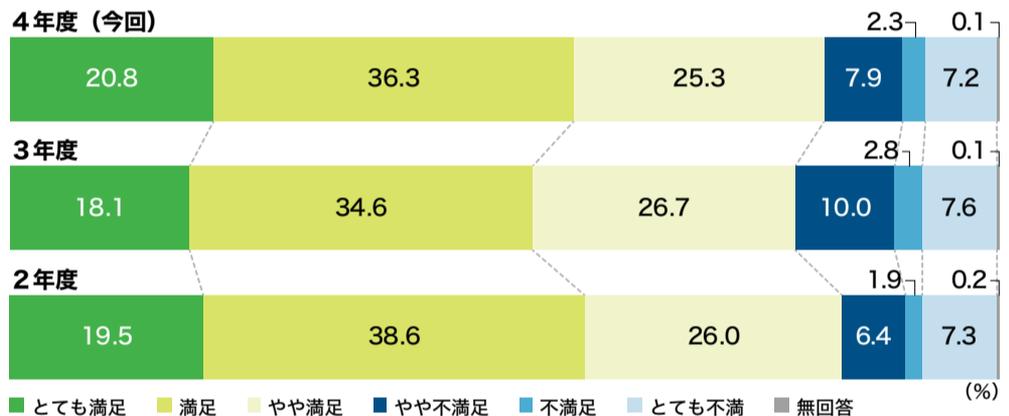


主なアンケート調査の結果（全体）

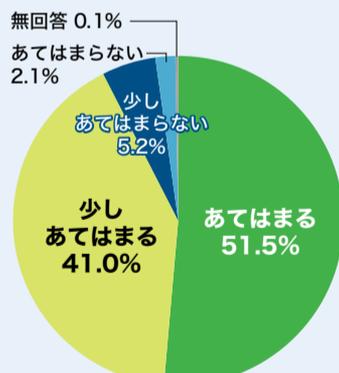
大学生生活にどの程度満足しているか



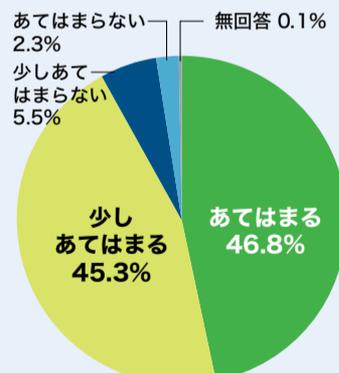
【大学生生活満足度の3ヵ年推移】



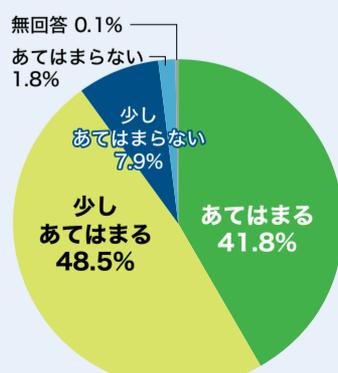
日本に対する理解が深まった



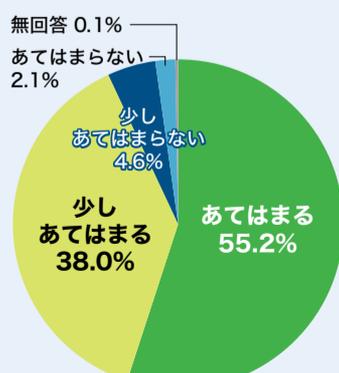
これからの人生に必要な知識や技能が身に付いた



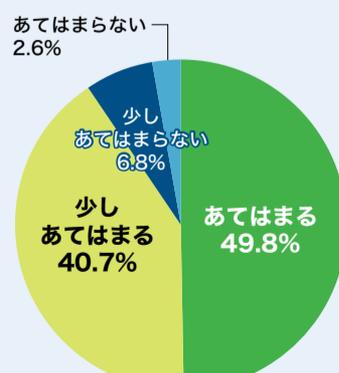
現代社会を生きていくために必要な思考力・判断力・表現力が身に付いた



客観的事実に基づいて論理的に思考し、その過程や結果を他者へ説明する力が身に付いた



他者の価値観を尊重し、異文化を受容する力が身に付いた



他者と協働して、最適な解を導き出そうとする体験が得られた

後輩へのアドバイス

- 自分の好きな事、学んでいきたい事に対してまっすぐに進んでください
- 授業を受けることに加え、さまざまな所に遊びに行ってみてほしい。さまざまな人と関わりを持つことは大切な学びだと思う
- 日本語や日本文化に対する理解が深まり、もっと知りたいと思った時には4年だった。興味を持ったものを追求していく姿勢を持ってほしい
- 大学生生活でさまざまな経験をしてください！ 将来皆さんの力になります
- 専門教育科目だけでなく、全学オープン科目も積極的に多く履修して、視野を広げることが大切だと思う
- グループワークや人前で発表する機会がたくさんあるため、それらを活用し勉強すると高校生活まででは身に付かない力がつくと思う
- 大学生生活は楽しいこともつらいことも自分次第で決まります。自分がしたいこと、すべきことは何かを考え行動することで自らの糧にできると良いですね